

# 建築文化奨励賞



所在地：流山市東深井991

施主：流山市

設計：(株)アサヒ設計事務所

施工：大木建設(株)

## 景観に配慮した建築物 森の図書館

建物のネーミングが物語るように、恵まれた自然環境を生かしながら周囲に調和した地域図書館である。蔵書能力155,000冊という、中央図書館に準じる貸し出し機能とレファレンスの総合サービスを提供している。さらに、この図書館の特徴として、展示室・会議室・和室といった、コミュニティ・スペースを持っていることをあげることができよう。地域文化の拠点づくりといった観点からも、開かれた図書館づくりを実践している。

住宅地側からのアプローチは、あまり手を入れすぎず自然に近い状態で林を残しつつ、北側の公園へ向けて建物内部を通り抜けできるようになっている。建物が立ちあがるのではなく、地域の交流がはかりやすいようにと配慮した点が高く評価された。自然エネルギーにたいしても、雨水の再利用といった事を積極的に展開し、広く水資源の大切さを伝えるために、ユニークな仕掛けを施していたりする。全体的に自然光を取り入れた明るい図書館で、屋外閲覧コーナーなどのゆとりのスペースも持っている。建築そのもののデザインに関しては、細部



撮影：沢本吉則

へのこだわりがもう少しほしいとの声もあったが、地域への貢献と施設運営の積極性が評価された。

(工藤和美)

8

所在地：佐倉市宮小路字鍋木小路61

施主：佐倉市

設計：田中文男

施工：(株)眞木建設

## 景観に配慮した建築物

## 佐倉武家屋敷旧但馬家住宅

晩秋の一日、築地にイヌマキの生け垣がつらなる佐倉市鍋木小路に、市の指定有形文化財として復元された武家屋敷旧但馬家を訪れる。敷地1,338.49m<sup>2</sup>、建築面積139.64m<sup>2</sup>、築後約180年、かつて中級武士の役宅であったという。転封のつづく時代のいわば官舎である。

武家屋敷は、身分制度そのままに各藩の定めがあり、造りの質素堅実さが往時の生活の姿を偲ばせるが、白

壁に南天の赤い実がゆれ、裏庭から落葉炊きの匂いがよぎる空間のゆとりに、便利さと引き替えに失った住宅事情の今昔を思わずにいられない。

昨今、全国的に歴史的文化施設の保存が熱心に進められるようになったが、ややもすると観光施設化する傾向がある。伝統は現代に生かされてこそ文化といえる。

旧但馬家は隣地の旧河原家ともども、かつての武家邸町であった鍋木小路の面影を伝承しつつ、ゆとりある街づくりの鍵となっている点が評価された。奨励賞の対象は、むしろ旧但馬家保存に意義を与えたこの小路の家並を守った住民にこそふさわしいといえよう。

生きた街づくりとは、行政と住民の時間をかけた納得のプロセスにこそ熟成されていくのではなかろうか。さらに一歩すすめて電柱を地下に埋めよう。自動車の通行に工夫はないか。街灯は慎ましくありたい。そんな意見が住民からの発言となって、この小路を現代に生きる家並デザインとして守り育ててほしい。

(野口瑠璃)

